

保護者の皆さまへ

吹田市立千里第一小学校
校長 平山 ちさと

令和元年度全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和元年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月中旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、得られた課題をもとに、よりきめ細やかな指導を進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査の分析

◆ 国語＜概要＞

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の三領域と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について、全国値と比べ課題がある。
- ・無回答率については、全国値より低く学習に向かう前向きな姿勢がある。
- ・学力の分布に関しては、平均正答数は全国値と比べてやや中央よりにある。

◆ 国語＜各領域における成果と課題＞

【話すこと・聞くこと】

- ・「目的に応じて質問を工夫する」・「話し手の意図をとらえながら聞き、自分の考えをまとめる」ことに課題がある。

【書くこと】

- ・「図表やグラフを用いて目的を捉える」・「自分の考えの理由を明確にしまとめて書く」ことに課題がある。

【読むこと】

- ・「文章の内容を押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」は、全国値とほぼ同様である。
- ・「本や文章全体を概観して効果的に読む」には、やや課題がある。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」は、出題される漢字によって課題のあるものと、全国値を上回るものがある。
- ・「ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる」は、課題がある。

◆ 国語における成果と今後の改善点

- 表現力については、ペア学習やグループ学習の成果がでていると考えられます。ただ、言語についての知識に課題がみられるので、授業における指導のみならず、家庭学習でも継続して取り組めるよう宿題の出し方を工夫します。
- 話すこと・聞くことについては、質問の意図を捉えることはできていますが、相手の意図と自分の意見とを比べながら考えをまとめることに課題がみられるので、授業の中で、自他の意見や考えを交流する時間を設けることで力をつけていきます。
- 書くことについては、「自分の考えの理由を明確にしてまとめて書く」ことに課題がみられます。各教科の授業の中で振り返りを書かせる等、書く経験を増やしていきます。
- 読むことについては、文章の量によっては内容を的確におさえながら読み進めることに課題がみられるので、様々な文章を読む経験を積み重ね自分の考えや思いをまとめられるようにしていきます。

◆ 算数＜概要＞

- ・「数と計算」の領域は全国値を上回り、「量と測定」「図形」「数量関係」の領域では全国値とほぼ同様である。
- ・無回答率は、全国値より低く学習に向かう前向きな姿勢が見られる。
- ・学力の分布に関しては、平均正答数は全国値と同様で右肩上がりとなっている。

◆ 算数＜各領域における成果と課題＞

【数と計算】

- ・「水の使用量の約何倍かを棒グラフから読みとって書く」「かける数やわる数をえらび計算しやすい式にして計算する」は全国値を上回っている。
- ・「減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるかを書く」は、課題がある。

【量と測定】

- ・「示された形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる」は、全国値を上回っているが平均正答率は5割程度である。
- ・「場面の状況から単位量あたりの大きさを基に、求め方と答えを記述しその結果から判断できる」は、課題がある。（【数量関係】の領域にも属している）

【図形】

- ・「台形について理解している」は、ほぼ全国値である。
- ・「図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができる」は、やや

課題がある。

【数量関係】

- ・「目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができる」は、全国値を上回っている。
- ・「示された除法の意味を理解している」は、全国値を上回っているが、平均正答率が低い。

◆ 算数における成果と今後の改善点

- 数量や図形についての技能は全国値を上回っており、算数を得意としている児童が多いと考えられます。
- 図形領域の作図活動に関して、習熟度別少人数指導で学習することで習得できたと考えられます。今後も個に応じた指導を継続していきます。
- 「減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述」する内容や、「単位量あたりの大きさを基に、求め方と答えを記述しその結果から判断」する内容に課題がみられます。本校は、式と図や表、絵などを関連付けて自分の考えを表現する力を育む教育活動に取り組んでいます。引き続き、記述力を向上するため、めあてに対する振り返りをノートに書いた後、交流する活動を全教育活動の中で行い、考えを深められるようにしていきます。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

- ・家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している児童は、大変多いが、自分で計画を立てて勉強することにおいては、課題がみられる。
- ・「今住んでいる地域の行事に参加していますか」や「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」に対し肯定的な回答をしている割合が全国平均を下回っており、地域とのかかわりを意識できる機会の持ち方に課題がみられる。

【規範意識・自己有用感について】

- ・「自分には、よいところがあると思っていますか」と「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことはありますか」に対し、肯定的な回答をしている割合は全国値を上回っている。
- ・「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」に対し、肯定的な回答をしている児童は全国値を下回っている。
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に肯定的な回答をしている児童の割合は99.2%であり、全国平均を上回っている。

【教科・学習について】

- ・国語の学習で、文章や資料を読むとき、目的に応じて必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読む活動に課題がみられる。
- ・「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか」に対

し、肯定的な回答をしている割合は全国値を上回っている。

- ・「算数の問題の解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」に対し、肯定的な回答をしている割合は全国値を上回っている。
- ・算数の調査問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題に対して、最後まで書こうと努力する児童の割合は全国平均を上回っている。
- ・算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えることに、課題がみられる。

3. 今後の取り組みと改善

本校では、研究テーマを「主体的に自分の考えを表現する子どもを目指して」と設定し、学習活動に対して、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返り、次につなげようとする力を身に着けさせるべく、教育活動を行っています。今年度は特に、算数の授業を通して、自分の考えを、式と図や表、絵と関連付けて書く学習活動に重点を置いています。

今年度の6年生は、「教科に関する調査」と「学習環境等に関する調査の傾向」から、算数の調査問題のうち、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題を最後まで解こうと努力する一方で、解法や自分の考えを書く問題の正答率が全国平均を下回っています。本校の研究テーマにすえた「自分の考えを表現する力」を育むべく、算数のみならず、各教科の授業において自分の考えや意見を伝え合ったり、書いたりする活動を多く取り入れていきます。

また、「教科に関する調査」のうち「算数」では、全国平均を上回る結果が出ました。これは、3年生から6年生で習熟度別少人数指導を実施したことの成果が表れてきたと考えられます。今後も、習熟度別少人数指導の充実やICTを効果的に取り入れるなどの指導方法の工夫・改善に努めていきます。